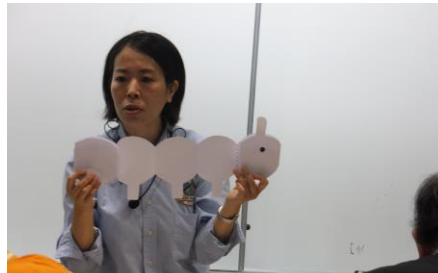


多摩動物公園 昆虫館にて 6月13日（月）



昆虫館にて 学芸員山崎さんの解説

地球上の生物は174万種。そのうち昆虫は7割。

「約4億年前に現れた昆虫の祖先は足が沢山あった」と紙の模型を使って昆虫の進化を説明。

足の一部が、顎（あご）になったり羽になったり…

生活する環境に合わせて形を変え、足が6本、胸・胴・腹という体を持つ現在の形になった。

昆虫館では、色々な蝶を育てるためにそれぞれの蝶が食べる植物も育てている。



卵から幼虫になった時に食べる葉っぱ（植物）が限られている。幼虫が身を守るために、天敵の鳥が食べると毒のなるもの（植物）を食べる幼虫もいる。



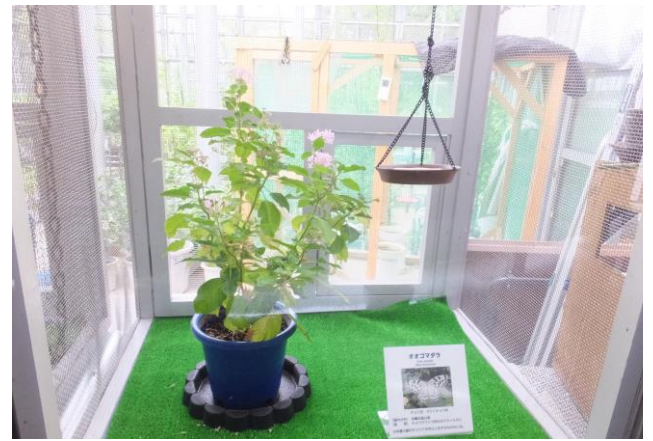
ガガイモ科の『ツルモウリンカ』は

リュウキュウアサギマダラの幼虫の食草です。

成虫は集団で冬を越します。



「ギョボク」はツマベニチョウの幼虫の食草
 「ホウライカガミ」はオオコマダラの食草
 「カラスサンショウ」はアゲハ類の食草



キョウチクトウ科の『ホウライカガミ』は
 オオコマダラの幼虫の食草です。

昆虫館 蝶の温室



蝶は目で花の色を見て蜜を吸いにやってくる

開けた場所を好む蝶、樹々の生い茂っている場所を好む蝶など色々な蝶が居るので、それぞれの蝶が好む環境を作っている。



<解説者の話>

蝶の生活や蝶が好む環境を知っていると『環境』が分かる。アゲハチョウが飛んでいると近くにミカンの木があることが分かり、モンシロチョウが飛んでいると、開けた緑のかたまりがあることが分かる。

蝶の羽の不思議、美しさを知る

蝶の羽は水をはじく



雨から身を守る蝶の羽の鱗粉（りんぷん）の不思議を観察。顕微鏡で見ると色とりどりの鱗（うろこ）のようなものが見える

① 紙にロウを塗り反対面に「羽を置く」



② 紙を重ねて「写す」



③ 折った紙を広げると鱗粉がきれいに写っている





きれいにデザインをして鱗粉を写した参加者

<昆虫館で学んだ感想・意見>

2週間ほどの命を次の世代へつなぐために、一生懸命、環境に合わせて進化してきた蝶の話聞いた。

昆虫を知るとは環境を知ること、私たち人間はもっと謙虚に生きなければいけないと思った。

環境学習リーダー 高橋由美

<コオロギ相撲>

遊びながら、コオロギの個体差、性格がわかる



<雄コオロギの訓練中>

筆の先に、別の雄コオロギの臭いを付けたものでコオロギを刺激する。



おす同士が取っ組み合いの相撲をするが、殺すまではしない。

一度勝負がつくと、力関係が固定され、弱い方は逃げ回る。振動や環境の変化など強い刺激があるとリセットされる。